概要版

自治会で福祉活動をする仕組み

自治会福祉部とは？

その前に、そもそも自治会とは・・・

町又は字の区域その他市町村の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体（自治会、町内会、町会、部落会、区会、区など）

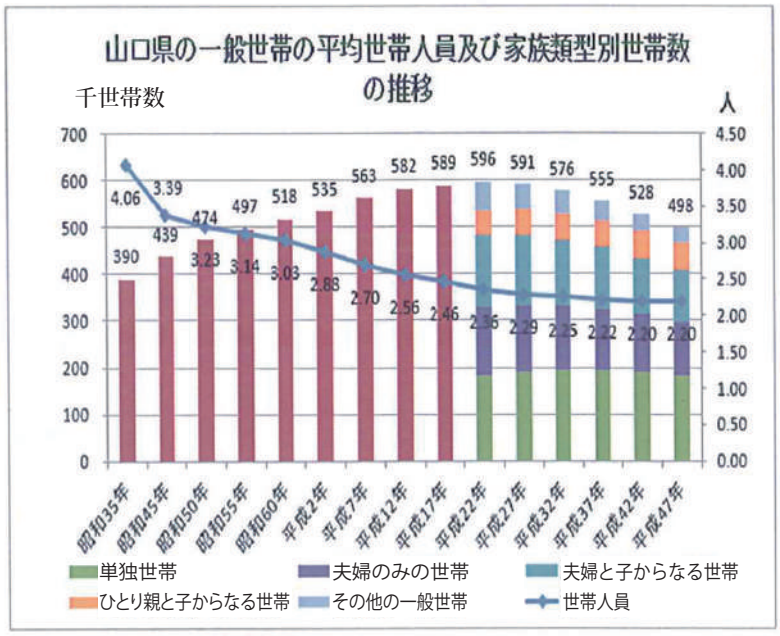
※全国で298,700の自治会・町内会等が存在するとされ、(H25.4.1現在総務省調べ）、山口県には6,512の自治会・町内会があります。
（平成28年度地域福祉活動実態調査　山口県社会福祉協議会）

社会福祉法人　山口県社会福祉協議会

自治会・町内会区域における地域福祉活動推進検討委員会

いま、どのようなことが社会全体で起きているのしょうか？

～ご近所とお話ししていますか?隣人の顔も分からなくなった現代（いま）～



※平成17年までは国勢調査結果
※平成22年からは「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）（2014（平成26）年4月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を参考に作成

少子高齢化の進行や核家族、単身世帯の増加など、近年の社会変化は、私たちの身近な地域社会にも変化をもたらしています。
左の図は今後も世帯数の減少が想定される中で、１世帯あたりの人員も減っていくことを示しています。人々の間に多様な生活スタイルが生まれたことは、各世帯や一人一人の価値観にも変化をもたらし、小さな地域社会の中でも格差が生まれるようになってきました。価値観の多様性は、時に住民同士のつながりを希薄化させる要因にもなります。

徐々に見えにくくなった身近な問題

～このような問題が増えてきています～

孤立死
認知症
ひきこもり
経済的困窮
虐　待
自殺
自然災害
悪徳商法・うそ電話詐欺

近年、地域では既存の社会保障や福祉政策のみでは解決に至らない複合的な問題を抱えた人が増えています。その理由の１つとしては、公的なサービスが整備されてはいるものの、実際には隙間があり、どのサービスにも当てはまらない困りごとが存在していることや、そもそも公的な福祉サービスだけでは対応できない問題が増えてきていることがあります。上にも挙げているこれらの問題は、県内でも数多く見られる事例です。もしかしたら皆さんの身近なところでも、このようなことが起こっているかもしれません。

地域のSOSを見逃さない！地域で活躍する様々な人たちとは

民生委員・児童委員

厚労省からの委嘱による、身近な住民視点の相談・支援者として、自立支援や福祉サービスの利用援助、災害時の要支援者の把握等を行う地域活動者。

福祉員

市町又は地区社協会長から委嘱を受ける地域活動者。住民同士の「つなぎ役」としての役割を担っており日頃から近所への声かけや見守りを行っている。

老人クラブ

自治会・町内会単位の仲間づくりを通じて、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする社会活動に取り組み、明るい長寿社会づくりに努めている。

福祉施設・企業

社会福祉法の改正により、社福（注1）が地域に貢献する活動を行うことが義務付けられた。企業も同様に営利活動に限らず、社会貢献を行う風潮が広まってきている。

自治会・町内会

町又は字の区域、その他市町村の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体。（自治会、町内会、町会、部落会、区会、区など）

NPO・ボランティア組織

平成12年介護保険制度の導入以降、社福（注1）以外の法人も福祉サービスの実施主体になっており、個人、グループ問わず、多岐にわたる活動をしている。

まちづくり協議会

住民による自治組織。地域課題を解決するため、自治会連合会地域を活動単位として地域内の各種団体やボランティア等で構成されている。

市町社会福祉協議会

身近な地域の課題解決に取り組み、住民が安心して暮らし続けることができるまちづくりを進めていくことを使命としている民間非営利組織。

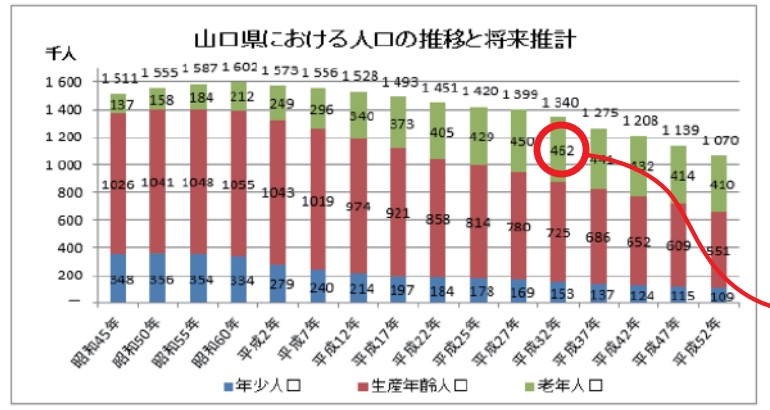
行　政

社会福祉法には、福祉サービスの提供体制の確保に関する国及び県の責務が規定されており、市町では地域福祉計画の策定が義務付けられている。

（注1）社会福祉法人

知りたがりコーナー

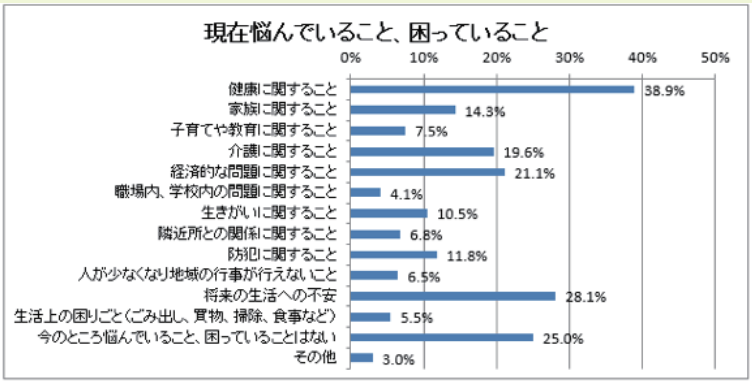
データで見る地域のいま



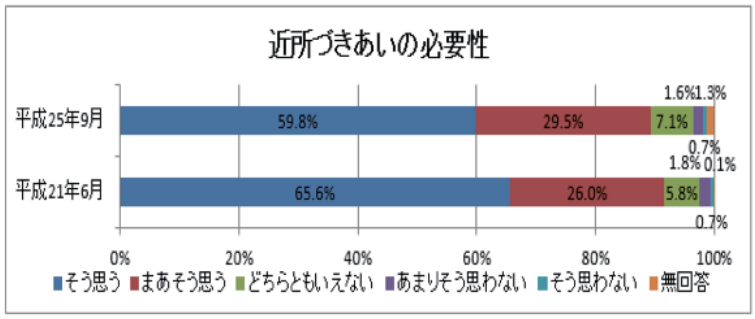
※平成25年度までは「山口県人口の動き～平成25年山口県人口移動統計調査概要～」（平成26年4月）「山口県総合企画部統計分析課」を参考に作成
※平成27年からは「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を参考に作成

全国で超高齢化と人口減少が同時に進行している中、山口県では全国平均の10年以上先を進んでいると言われています。平成32年には山口県の高齢人口はピークとなり、その後は減少していく事が予測されていますが、若い世代の減少により、高齢化率は年々上がっています。

福祉や防犯、教育など様々な分野から、再度地域の力を高めて行こうとする動きも見られる中で、近所同士で挨拶を交わさなくなったなど、人々のつながりの希薄化も進んでいます。しかし、近所同士の関係性を求めている方も少なくないようです。



※2013年度福祉に関する県民意識調査（平成25年9月）（山口県社会福祉協議会）



※2013年度福祉に関する県民意識調査（平成25年9月）（山口県社会福祉協議会）
※2009年度福祉に関する県民意識調査（平成21年6月）（山口県社会福祉協議会）

自治会にしかできないことがある！

地域における自治会のチカラとは！

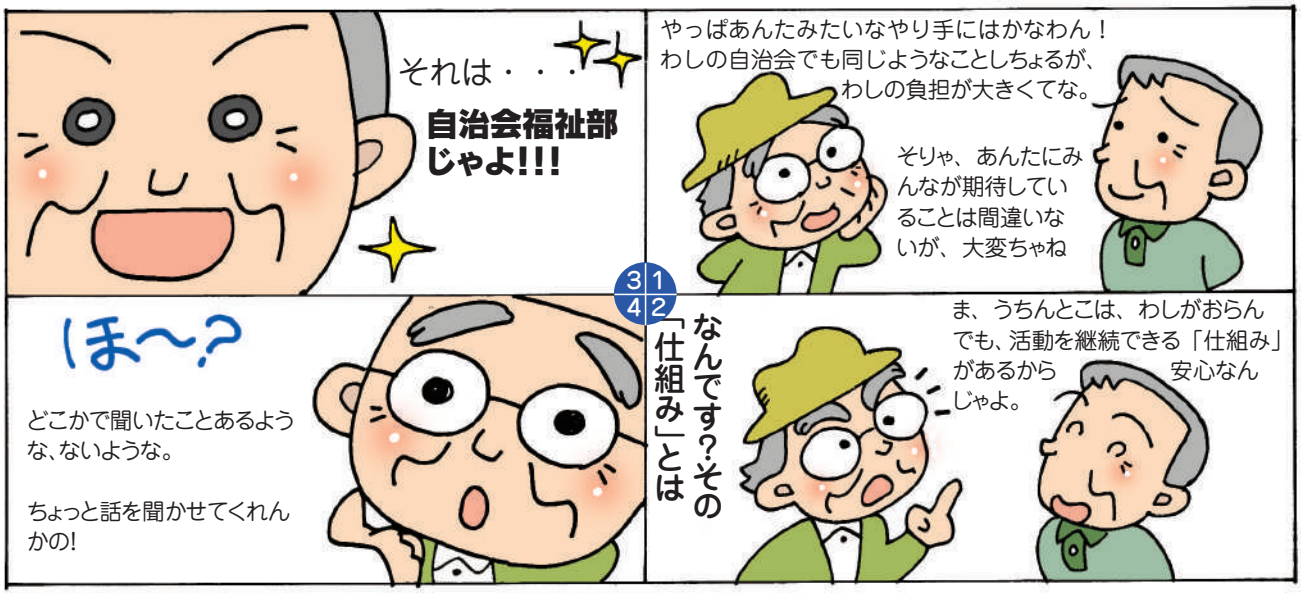
自治会・町内会の機能は幅広く、多岐にわたります。平成27年度に実施した県内の連合自治会長を対象にしたアンケートでは次のような結果となり ました。

福祉活動を行っている86.8%の自治会・町内会に、その活動内容を尋ねたところ、見守り活動が最も多く、次いでふれあい・いきいきサロンの開催という結果となりました。

　また、全体的に見てみると多くの自治会・町内会では住民同士で話し合いの場を設け、自分たちの地域にどのような問題があるのかを共有する機会を設けています。

図１０　自治会・町内会で実施されている福祉活動の内容

※「自治会・町内会における福祉活動に関する実態調査」付問 9-1



自治会で福祉活動を始めてみたい！

自治会福祉部を知っていますか？
～私たちのまちをよりよくするためにできること～

自治会福祉部とは

組織的・継続的な比較的狭い範囲での福祉活動を行っていくための自治会・町内会組織の中にある専門部会の１つです。

メンバー構成について

部員は、自治会・町内会長、民生委員・児童委員、福祉員、友愛訪問員に加え、自治会・町内会ごとの実情に応じて様々な関係者が参加し、活動しています。

活動内容について

多くの自治会福祉部では、自治会・町内会区域における様々な福祉問題について話し合う運営会議と、一人暮らし高齢者などの支援を必要とする人への声かけや見守り活動、ふれあい・いきいきサロン活動を基本活動をしています。

自治会福祉部のメリットについて

- 住民に身近な地域において福祉活動を行うことができます。
- 自治会の組織として位置づけることで、皆に共通する問題を解決するための活動として住民から幅広い参加が得られます。
- 部の中に役員、メンバーを置くことにより、自治会内で福祉活動を行う担い手が明確になります。
- 自治会主体の活動として、組織・財政面での基盤が確立します。

自治会で福祉活動ができたなら・・

自治会で福祉活動をすることのメリットとは

顔なじみになれば 小さなことも相談しやすい	季節感もみんなで 味わえば思い出も倍増	いつも、声かけあえば 緊急時だって、ほら、安心!
多世代間の交流で 笑い声が聞こえる地域へ	人と人との出会いから 広がる地域の一体感	無理のない範囲で 地域を守れる
ほんの少しの優しさで ゴミ出しだって楽ちん	年を重ねても安心して 暮らせる地域になる	見守られ 毎日元気に登下校

生活上で困りごとができたとき、様々な制度やサービスを利用することができます。しかし、それだけでは解決が難しい問題も暮らしの中には多くあります。友人や地域の人と交流を持ち、豊か に暮らし続けるためには、助け合い活動が実は大きな役割を果たします。こうしたことから、身近 である自治会・町内会における福祉活動が果たす役割に期待されています。

地域の清掃をしながら危険場所を見つける活動(下関市)下関市安岡町自治会

事例1

＜地域概要＞

安岡町自治会は、下関駅から約 20 分の山陰線安岡駅より山手に位置し、下関のベットタウンともいえる。現在は、560 戸、凡そ 1,700 人が暮らす大きな自治会であり、小学校、中学校が在る文京地域でもある。元々は、80戸足らずの農村集落であったが、この 50 年間に団地の開発などで地域は大きく変わってきた。現在、古い団地では、高齢化をと単身生活者が増えて、町全体の高齢化率は 23% 程度になってきた。

新しい団地では、若い世代が増えたが、住民全体のつながりは希薄化し、加えて価値観の多様化が進み、自治会活動にも福祉活動にも「2025 年問題」を含めて大きな問題を呈している。

＜活動内容＞

現在は今回ご紹介している事例の活動をベースに、老若男女の交流ができる場づくりを計画し、実施している。実施している活動としては
遊び道具作り、案山子展示、凧揚げ大会、茶話会、高齢者見守り活動、防災活動のマニュアル作成や机上訓練、被災時の炊き出し訓練などがある。

誰もが参加できる基本的な活動を計画的に展開することによって、力まずに「2025 年 問題」がクリアできる地域にしていくことを狙っている。

事例の活動は、住民のコミュニケーションを図るために、誰もが参加できる活動として計画した。それは、町内を回りながらポイ捨てされたゴミを拾うことと、この地域を知らない新興団地住民に地域の状況を知ってもらうために、町内の危険な場所を見つけてもらうことである。発見された危険場所への安全対策は、市へ依頼し、環境整備を行うことにした。

2 つの目的を持ったこの活動は、下関市社会福祉協議会から活動助成金をいただいて、活動の原資とした。3 年間続けたあと、現在は自治会の年間行事として定着している。危険場所については、通学路を中心に 6 カ所の安全対策が実施できた。

活動の進め方は、参加した住民を居住地域毎に 3 班に分けて日頃行く事がない、他の居住地域を担当させ、3 地区の地図を持ち、日頃見ていない地域を歩き、違った目で見てもらうのである。

子ども会には、ポイ捨て等に関するポスターを描いてもらい、町内の掲示板に年間を通して、全員のポスターを掲示した。ポスター描きも子ども会の年間行事として定着、いろいろな啓発ポスターが掲示されるようになった。この活動によって徐々にではあるが、町内の住民の顔が分かるようになり、お互いに挨拶もできるようになってきた。また「一日喫茶」などの他の行事にもいろんな「顔」が見られるようになってきた。

＜活動を始めた経緯＞

(1) 平成 22 年 4 月の自治会総会で、住民より「福祉および防災の活動の推進」について要請があった。

(2) 自治会役員会で、福祉及び防災について検討し、調査・検討をした。

①他市町村の自治会福祉活動をインターネットで調査した。

②当自治会の福祉や防災に関わる現状の不具合を調査した。

③下関市社会福祉協議会へ相談した。

④検討の結果、「福祉委員会」の設置が必要との結論を得た。

(3) 平成23年2月、福祉委員会の設置について、相談会を開催し、賛同を得た。メンバーは、自治会三役、自治会長経験者、民生委員・児童委員、福祉員、保護司、保健推進委員、長寿会長、子供会長、婦人会長であった。(4) 平成23年3月、自治会総会で、「福祉委員会の設置」と「福祉委員会規定」が承認された。

＜活動をするまでの流れ＞

(1) 平成 23 年 4 月当初の福祉委員会は、自治会長が委員長を務め、各部会委員を並列に並べた一般的な組織形態であった。

(2) 福祉委員会を開催して、既存の各部会と情報交換し、現状の共有につとめた。

(3) 長寿会や子ども会を対象として、福祉活動を開始した。

(4)「福祉員」の立場を明確にしなかったので、結果として福祉員の空回りに終わった。

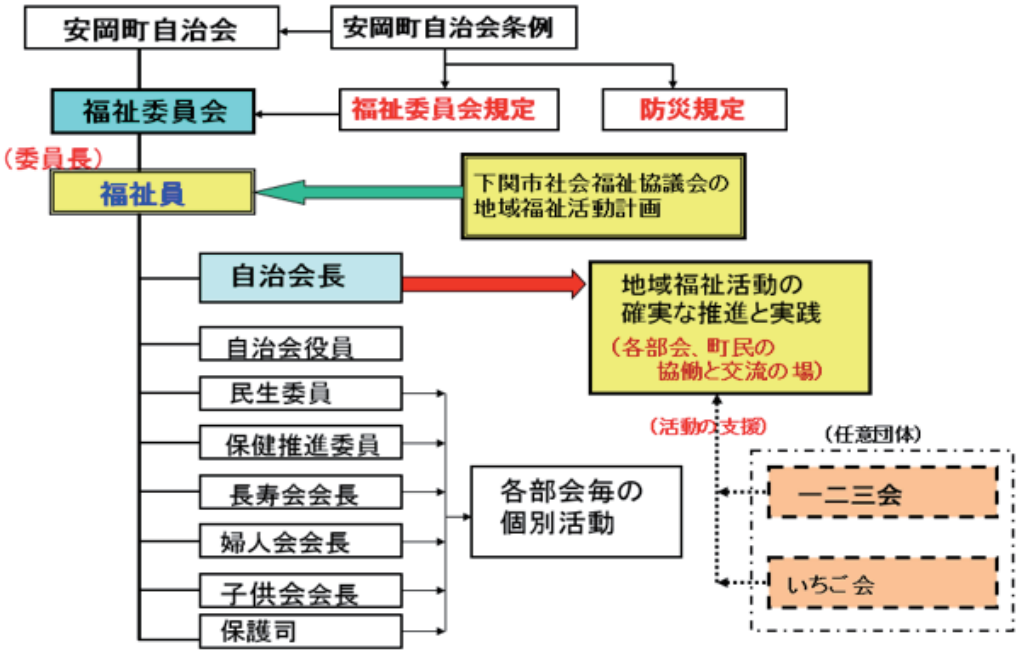
(5) 平成24年4月、1年間の活動を反省し、「福祉員」を福祉委員会の委員長に選任した。

(6) 福祉員を委員長とする新組織のもとで、年間活動計画および予算を立てた。

(7) 実際の活動は、自治会長がリード、他の役員や部会がサポートする状態でスタートした。

(8) 特に定年退職した団塊世代の者が、任意団体を結成して活動に参加したことが、推進力になった。

＜組織体制＞ 福祉委員会　活動の仕組み（組織図）



＜活動のポイント＞

福祉活動は、弱者のためではなく、将来の自分の為に取り組むべき活動という認識に立った。また、「福祉活動の負担が増えた・・・」、という負担感を無くするために、自治会活動と福祉活動を一体化させることに努めた。

活動のポイントとしては、

(1) 活動を継続させるために、ベースに自治会で守るべき「福祉委員会規定」や「防災規定」を制定。
(2) 年間の活動計画を立てて、活動の PDCA サイクルを回す。
(3) 活動の内容や時期はできるだけ自治会の諸活動と合わせたり一体化させる。
(4) 社会福祉協議会の助成金制度を活用して、活動予算をつける。
(5)「誰かがする・・・」のではなく、活動の主担当者を決めて皆で協力する。
(6) 年 4 回、活動のチェックポイントとして福祉委員会を開く。
(7) 反省した結果を次の活動に反映させる。
(8) 適切な時期に慰労を兼ねた懇親会を開催する。

＜今後の抱負＞

(1)「2025 年問題」に向けて活動を継続していくこと。
(2) 地域住民が福祉活動への理解を深めていくこと。
(3) 福祉活動のレベルが上がるに連れて、高齢者や弱者への対応を図ること。
(4) 文京地域にふさわしい活動、更には地域にある介護施設との連携を深め相互関係を向上させること。
(5) 日常的に誰もが活動に参加できて「ひとりぼっち」を無くすこと。
(6) 独居高齢者の見守りや生活支援、緊急時の支援を行う仕組み作りををすること。

＜自治会福祉部の魅力＞

(1) 色んな経験や価値観の違う人達が、「住みやすい地域を作る」という同じ目的で一緒に活動していけること。
(2) 仲間意識ができ、「ひとりぼっち」をなくする事によって、認知症などの発症を遅らすか避けることができる。
(3) 日常的に自分ができる活動に参加することにより、地域における自分の存在が持てる。

＜活動の様子＞

清掃作業の状況

読者へのメッセージ

今、自治会の福祉活動を進めたいと思っているあなた、「誰かがするだろう‥」と待っていても始まりません。思い立った今、あなたが始めれば、理解者や協力者が 必ずでてきます。この事例は、始める時のご参考に。

多世代をつなぐ自治会活動（防府市華城地域）　事例2

古谷河内地区自治会

＜地域概要＞

人口 1,300 人　世帯数 622 世帯　高齢化率 25.3％

宅地開発が進み、都市化傾向が著しい。人口、世帯数が増加しているが少子・高齢化も進行している。単身高齢者、二人暮らし高齢者世帯数も増加している。

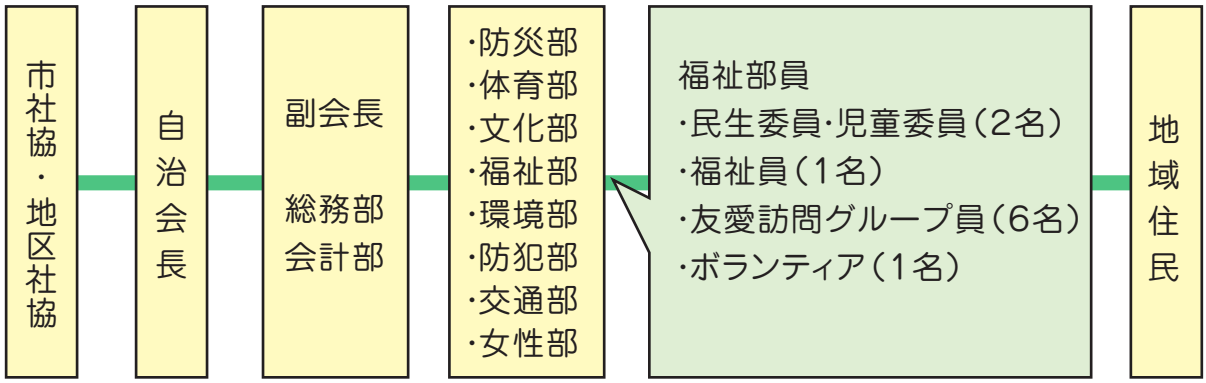
＜活動内容＞

・赤ちゃん、高齢者の見守り活動
・ふれあい・いきいきサロンの開催
・福祉弁当、歳末助け合い、敬老行事記念品等戸別活動（配布と安否確認）
・介護・健康課題等相談活動
・介護、防災、社会福祉等、研修会の実施・参加　　・・・・・など

＜活動を始めた経緯と活動をするまでの流れ＞

・福祉員制度(友愛訪問グループ員制度)が発足したが、自治会組織への位置づけがなく、活動内容が不明瞭だった。福祉部の設置によって両員の所属意識が充たされ、活動目標が明確になった。
・住民主体の福祉活動を推進することは、時代の要請(社会福祉法)であり、福祉部設立の大きな動機付けになった。
・市社協、地区社協の研修体制づくりによって、各自治会の福祉部設立の機運が高まった。

＜組織体制＞



＜活動のポイント＞

自治会福祉部が設置されると・・・・
・自治会への位置づけ・・・事業計画、活動計画が立てやすくなる。
・自治会事業と協働関係が成立し、運営の効率が良くなる。
・活動推進の成果を報告（回覧）すると次への意欲づけとなる。

＜今後の抱負＞

・個々の課題解決のための相談体制を仕組む。
・相談担当としての資質を高める。（研修会、勉強会への参加）
・地域住民参加型福祉活動を進める。（近隣高齢者の名前や人数が分かる）

＜自治会福祉部の魅力＞

・孤立化しそうな人、虐待されている赤ちゃん、児童、障がい者、徘徊している認知症の方等の早期発見、早期対応が図れる。
・自分の地域を自分の力(自治力、福祉力)で守ることの喜びが味わえる。
・他団体との協働関係が強化され、人間関係(絆)が深まる。

＜活動の様子＞

三世代交流を楽しむ自治会活動

＜ふれあい・いきいきサロン＞
みんなで咲かせた花で花見をします。

＜夏祭り＞
踊りの名人にお年寄りに習った「防府おどり」を楽しく踊っています。

＜子育てサロン＞
三世代が集まって子育て活動をしています。

＜お年寄り体験＞
子どもの感想：大変なことがよく分かりました。

読者へのメッセージ

ある日、親子連れの二人から「こんにちは」とあいさつをされました。こんな日は、一日中 心が晴れ晴れします。近隣の人同士、いつでもどこでもあいさつや笑顔が飛び交うコミュニ ティづくりに励みたいと思います。

みんな仲良く助け合い支え合える地域を目指して(長門市)

事例3

大泊(おおとまり)自治会福祉部

＜地域概要＞

私たちの地域は、山口県北部の青海島の中にあり、人口は 308 人（H29.1 月 10 日現在）、高齢化率は約 47% です。地域の主な産業は漁業や造船業でしたが、漁業人口の減 少とともに衰退し、過疎・少子高齢化が急速に進行しています。今後の地域の課題は、年々 増加する高齢者の見守りなどの支援対策です。

＜主な活動内容＞

見守り活動（高齢者の声掛け・訪問）、助け合い活動（高齢者のゴミ出し）、ふれあい活動（クリスマス会、バス小旅行）、研修活動（出前講座、認知症講座等）、防災活動（防災 マップづくり）、広報活動（自治会福祉部だよりの発行）、自治会行事（盆踊り、敬老会、体育祭）のお手伝いなど。

＜自治会福祉部活動を始めた経緯と福祉部の設立から活動をはじめるまでの流れ＞

自治会の「福祉・環境委員会」の役員だった民生委員・児童委員が、市社協の「自治会福祉部設置助成事業」を活用し「大泊自治会福祉部」に名称を改め、H25.6 月に立ち上げました。

＜組織体制＞

代表者（自治会長）1 名、福祉部長（民生児童委員）1 名、福祉員 2 名、老人クラブ会長 1 名、婦人会長 1 名、役員 2 名の計 8 名体制。

＜活動のポイント＞

毎月 1 回発行している広報紙「大泊福祉部だより」は、担当者が配布しながら高齢者の見守りをしています。紙面では、身体や健康に関する情報も掲載するなど工夫を凝らしています。

また、その都度、報告や気付きなど役員同士で情報を共有するとともに、参加者だけでなく役員も皆全員で楽しめるような行事や活動を企画・開催しています。

＜今後の抱負＞

向こう 3 軒両隣、みんな仲良く助け合い支え合える大泊地域を目指して活動します。

＜自治会福祉部の魅力＞

ひとりではできないことを福祉部で共有し、何でも話し合えるところ。また、行事や活動を通じて参加者に喜んでいただくとともに、私たちも一緒に楽しめるところ。

＜活動の様子＞

５月のバス旅行の様子。宇部市のときわ公園に行きました。

市地域包括支援センターによる認知症予防出前講座の様子。

クリスマス会の受付。役員全員がサンタに扮してお出迎え。

クリスマス会での会食の様子。皆で食べるととってもおいしいです。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

読者へのメッセージ

色々な行事を進めていくうち役員同士の絆が生まれ、全てのことを“笑有”し合えました。また、高齢者の方々と地域で分け隔てなくお付き合いできるようになりました。

そういえば僕が小さい頃、毎年クリスマス会でサンタクロースに会えるのがすごく楽しみだったな～。地域の大人の人たちが企画してくれていたんだね。
今度は僕が逆の立場で協力したいな。

まるお

活動につかえる！資料のご紹介

個人情報

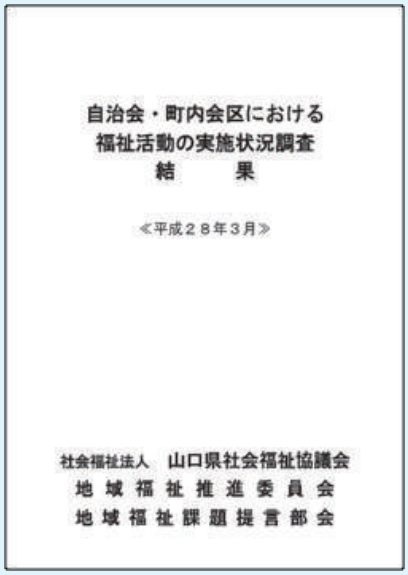
サロン

見守り

気になる資料がありましたら下記まで気軽にお問い合わせください。
資料は無料で配布させていただいています。

連絡先 山口県社会福祉協議会　地域福祉班　☎083-924-2828

調査の仕方



県内の自治会の状況

自治会活動の提案書

本パンフレットは、「自治会福祉部読本」
（マニュアル）の概要版です。気になる方は、
下記までお問い合わせください。

自治会福祉部とは？

発　行　社会福祉法人　山口県社会福祉協議会
〒753-0072 山口市大手町 9-6
TEL083-924-2828 FAX083-924-2847

発行日　平成29年3月

この冊子は、共同募金の配分金により作成しています。